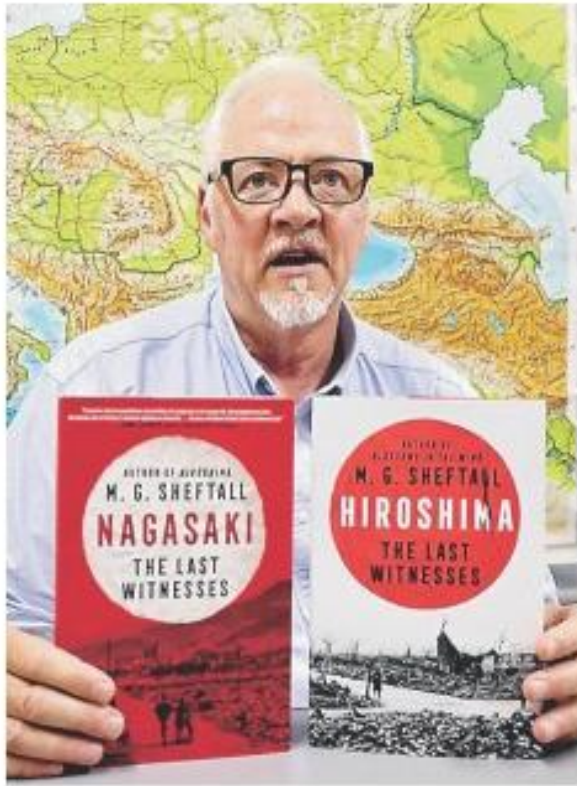


神戸新聞 2026年08月04日 火曜日 面名 タニ社 タ4 6ページ



オバマ氏が到着する前日、何げなく平和記念公園内の「原爆の子の像」の下に立った。その瞬間、全身に光が走るような感覚を覚えた。自分の息子2人と被爆死した子どもたちを重ね、涙が止めどな

2016年5月、オバマ米大統領（当時）が広島を訪問するときのことだ。歴史的瞬間を一目見たくて広島に向かった。長年、静岡大で特攻隊の研究に取り組み、元隊員の証言を英語で発信する意義を実感していた。

1987年に米ニューヨークから日本に来て、英語講師を始めた。多くの日本人に戦争の記憶が残っている時代だった。「米国はなぜ原爆を投下したのか」と聞かれることがあり、少し戸惑った。米国人の私にとって原爆は触れづらい話だった。



②

英語で証言集をまとめた静岡大教授
モーデカイ・シェフタルさん(64)

被爆の実相 米国人に伝えたい

くあふれてきた。

原爆に向き合い、被爆者の証言を米国、世界に伝えなければならぬと確信した。翌日、もうオバマ氏のことは頭から抜けていた。出会った広島市民に、公園で涙し、英語で本を書くこと決めたと話すと「やってみなさい。それがあなたの使命だよ」と背中を押された。

米国では原爆投下の正当化論が根強い。「本土決戦を回避でき、命が救われた」と話す元兵士もいる。「広島と長崎の人々は原爆の熱線で瞬時に蒸発し、誰も生き残らなかった」と誤解している人も珍しくない。

米国人だから取材を断られることもあれば、凄惨な証言の重みに心が耐えかね、体調を崩すこともあった。それでも約10年かけて50人以上の被爆者から聞き取り、広島と長崎の実相を描いた本をそれぞれ出版した。誰もが高齢で、まさに「最後の目撃者」だった。

読者には国の隔たりを超えて、被爆者の体験を自らの痛みとして感じてほしいし、米国人には一度は涙を流してほしい。共感こそが、戦争の抑止力になるはずだから。

1962年米ボストン生まれ。早稲田大院修了。専門は近現代日本史。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

上の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 When was the atomic bomb dropped in Hiroshima?

[]

2 What country is M.G.Sheftall from?

(モーデカイ・シェフタル)

[]

3 Choose two incorrect options from the four choices.

(間違った選択肢)

① He cried heavily in Hiroshima in May 2016.

② All Americans think that dropping the atomic bomb was wrong.

③ He didn't interview any Hibakusha.

(被爆者)

④ He says empathy stops war.

(共感)

[] []

NIEワークシートのこたえ（2026年8月13日公開）

◆ワークシート

「被爆の実相 米国人に伝えたいくつなく 終戦81年」(英語)
2026.8.4付 夕刊 6面 解答

- 1 August 6, 1945 (1945年でもよいですが、この日は覚えておきましょう。)
- 2 U.S.A (United States of America)
- 3 ② ③

すてっぷあっぷ

★わたしからのひとこと！（記事を読んだの感想や意見を1行で書いてみましょう。）

--

★100字シート (□にチェック) □記事の要約 □記事に対する感想・意見

[illegible]